

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520471

研究課題名（和文） 談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発

研究課題名（英文）Development of Discourse-Based Japanese Politeness Teaching Materials

研究代表者

松村 瑞子 (MATSUMURA YOSHIKO)

九州大学・大学院言語文化研究院・教授

研究者番号：80156463

研究成果の概要（和文）：

- (1) 多種多様な場面での会話資料を収集し、紙媒体およびCD-ROM資料集として出版した。
- (2) 留学生に、ドラマや映画、違和感を感じた日本語ポライトネスを収集してもらった。
- (3) 学習者の理解が困難な日本語ポライトネス指導教材を以下の方法で開発した。
 - ① 学習者の認識度を計るために、(2)のデータから10場面を選び出し、アンケートを作成し、日本人および中国人、韓国人に対して実施した。
 - ② アンケート結果を基に、学習者にとって理解するのが難しい日本語ポライトネス指導教材を作成し、解答例および教師が現場で使用するための指導要領を作成した。
- (4) 研究成果を学会および学術誌にて発表した。
- (5) 上記データを含めた報告書を紙媒体およびCD-ROMとして出版した。

研究成果の概要（英文）：

- (1) Three volumes of conversation data have been collected by some graduate students.
- (2) We asked some international students to collect Japanese politeness strategies which are difficult to understand and to give some comments on them.
- (3) A textbook has been produced for teaching Japanese politeness strategies.
 - ① We selected ten scenes from the data in (1) and (2), and made a questionnaire.
 - ② Based on the results of the questionnaire, we have identified some Japanese politeness strategies which are difficult for Japanese learners to understand and produced a textbook for teaching them.
- (4) The results have been read at academic societies and published in academic journals.
- (5) A report has been published, including some of the papers published in academic journals, the conversation data, the results of the questionnaire, and a textbook.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	400,000	120,000	520,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：言語学（意味論・語用論）、社会言語学、対照言語学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：ポライトネス、配慮表現、わきまえ、働きかけ、談話分析、発話行為

1. 研究開始当初の背景

ポライトネス研究として最も代表的とされる理論に、Brown & Levinson (1987) *Some Universals in Language Usage* があるが、このポライトネス理論については、取り分け敬語体系を有するアジアの言語研究者から批判されてきた (Ide (1989/1992)、井出他 (1986)、Matsumoto (1988/1989)、Gu (1990)、Mao (1994) 参照)。Ide (1989) は、ポライトネスには (1) 「わきまえ」を表す形式的形態を用いることで表現されるタイプのものと、(2) 「意志」を表現する Brown & Levinson が唱えるストラテジータイプのものがあるが、Brown & Levinson は (1) のタイプのポライトネスを全く議論から外していると述べる。また、Ide (1989)・井出他 (1986)、井出 (2006) は、英語でのポライトネスは (2) のタイプが高い割合を占めているのに対して、日本語では (1) のタイプのポライトネスが高い割合を占めていると述べ、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性について論じた。

井出やMatsumotoの議論には基本的に賛成できるが、これらの議論が説得力をもつためには、自然会話のデータを分析することで、日本語のポライトネスにおいて「わきまえ」と「ポライトネス・ストラテジー」が如何に機能しているかを示す必要がある。そこで松村・因 (2001) は「日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析」(平成10年度～12年度科学研究費補助金(基盤研究C2) 研究代表者(松村瑞子) 研究分担者(因京子)) において、社会的地位、年齢、性別、会話の主導責任の有無などから上下関係があると考えられる3つのタイプの会話(タイプ1(大学の研究室における大学教授と学生および大学教授間の会話)、タイプ2(医者と患者の会話)、タイプ3(テレビのインタビュー番組「徹子の部屋」における司会者とゲストの会話))を録音・文字化した資料の談話分析を行い、このような様々の上下関係が「わきまえ」や「ポライトネス・ストラテジー」にどのように反映しているかを分析した。

松村・因 (2001) では、談話分析に基づいて日本語のポライトネスにおける「わきまえ」と「ポライトネス・ストラテジー」の機能を示すことができたが、それを日本語教育の教材開発に応用するためには、以下のような不十分な点があった。

(1) 会話資料を上記3タイプに限定したため、現実の言語生活を十分に記述しているとは言えない。より多様な場面における会話資料を収集する必要がある。

(2) 日本語のポライトネスを外国人に合理的に提示するためには、日本語学習者にとって理解が困難であると考えられる日本語のポライトネスを特定した後に、そこに焦点を絞って教材開発をおこなった方が効果的である。

本研究では、この2点を考慮した上で、より効果的な日本語ポライトネス指導教材開発を行うことにした。

2. 研究の目的

(1) 効果的な日本語ポライトネス指導教材を開発するための基礎資料として、日本語学習者が日常生活で遭遇すると考えられる多様な場面における会話資料を収集する。

(2) 日本語学習者にとって理解が困難であると考えられる日本語のポライトネスを特定する。

(3) 学習者の理解が困難な日本語ポライトネスに焦点を絞って教材開発をおこなう。

3. 研究の方法

(1) 多種多様な場面での会話資料を収集する。日本語学習者が遭遇すると考えられる様々な場面の会話資料を収集し、これまで行ってきた方法を用いて談話分析を行い、取り分け場面を重視した日本語ポライトネスの特徴を抽出する。

(2) 日本語のポライトネスを学習者に合理的に提示するために、学習者にとって理解が困難と考えられる日本語のポライトネスを特定する。韓国人・中国人・台湾人大学院生を研究補助員として、テレビドラマを録画し、日本人には丁寧と感じられるが、学習者には丁寧すぎる、無礼、不自然と感じられる日本人のポライトネスを含む会話場面を抽出してもらい、不自然な理由を記入してもらう。

(3) 収集したデータを場面別に分類して、学習者に理解しやすい形式で、日本語ポライトネス指導教材を開発する。試作教材が完成した後試用し、問題のある箇所には修正加筆を行う。

4. 研究成果

概ね、上記の研究方法で研究を行い、以下の研究成果をあげた。

(1) 九州大学大学院比較社会文化学府大学院生によって、学生同士の雑談、会議、アルバイトの場面での雑談、職場の上司との雑談等々、多種多様な場面での会話資料を収集してもらい、それを以下の〔図書〕4『平成20年度日本語資料集』、3『平成21年度日本語資料集』、2『平成22年度日本語資料集』にて、紙媒体およびCD-ROMとして出版した。

(2) 九州大学大学院比較社会文化学府大学院生(中国人、韓国人、台湾人)によって、ドラマや映画、テレビインタビュー、メール中の違和感を感じた日本語ポライトネスを収集してもらい、さらに違和感を感じた理由についても書いてもらった。尚、収集されたデータは、本研究の紙媒体およびCD-ROMによる報告書中に含めて(73-107頁)出版した。

(3) 学習者の理解が困難な日本語ポライトネス指導教材を以下の方法で開発した。

①(2)で収集してもらったデータから10場面を選び出し日本語ポライトネスに関するアンケートを作成した。このアンケートを10代から50代の各世代男女各1名以上の日本人および中国人に対して実施した。アンケート内容およびアンケート結果の全容は本研究の紙媒体およびCD-ROMの報告書に含めた(108-143頁)。

②アンケート結果を基に、学習者にとって理解するのが難しい日本語ポライトネス指導教材を作成した。日本語学習者に試用して修正加筆を加えた後、以下の〔図書〕1『日本語のポライトネス—誤解されやすい日本語のポライトネスを中心に』として出版した。この教材は、第I部「基礎編」と第II部「応用編」から成っている。

第I部は、学習者が取り分け難しいと感じる日本語ポライトネスの指導教材である。「上位者が下位者に対して用いた丁寧表現」、「よそよそしく感じられる表現、丁寧すぎると感じられる表現」、「相手の恩恵を示すこと、相手の都合・利益を優先することの重要性」の3点に焦点をしばって指導教材を作成した。上記(2)で大学院生が違和感を感じた日本語ポライトネスのデータ、および前述の『日本語資料集』に収められたデータの中から、学習者が取り分け難しく感じる日本人のポライトネスを含んだ会話例およびメール例を選択し、それぞれの例に対して日本語ポライトネス理解を促すための設問を作成して教材化した。

第II部「応用編」は映像作品を用いて日本語ポライトネスを教えるための教材である。学習者の多くは「敬語使用=尊敬の気持ちがある。敬語不使用=敬意が欠如している」と考えている。しかし実際には、敬語や授受の補助動詞以外にも、「のだ」などの文末表現や、文体の交替、話者のジェンダーや年齢など個人的特徴を示す形式も、ポライトネスに関わることがある。しかし、こうした様々な言語装置を操作して、場面と個性に相応しい運用をすることは、そうした特徴が日本語よりも少ない言語を母語とする学習者にとっては容易なことではない。そこで、第II部では、1)発話行為 2)授受の補助動詞 3)文体 という3つの側面から、日本語のポライトネス・ストラテジーを意識化させることのできる教材の作成を試みた。具体的方法は、映像作品からいくつかの会話場面を取り出し、それに基づいて、以上取り上げた項目を観察させることのできるタスクを考案した。

最後に、解答例および教師が現場で使用するための指導要領を作成した。解答例および指導要領は、『談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発—平成20年度~22年度科学研究費補助金成果報告書』中に含めて(204-224頁)出版した。

(4) 研究成果を学会及び学術誌にて発表した。

〔雑誌論文6〕「日本語会話におけるポライトネス—中国語・韓国語のポライトネスとの対照研究に向けて—」では、先ず日本語のポライトネスには、社会的慣習に従って全ての話者が必ず示さなければならない「わきまえ」の部分と、会話を成功させるために選択される「働きかけ(ストラテジー)」の部分が存在することを、3タイプに分類された12種類の会話を詳しく分析しながら示していた。次に、台湾人・中国人・韓国人が奇妙に感じた日本語のポライトネスの例を挙げながら、日本語のポライトネスと中国語・韓国語のポライトネスの類似点・相違点について論じていった。最後に、これらの結果に基づいて、日本語と中国語・韓国語のポライトネスの類似点や相違点を説明することのできるポライトネス理論とは一体どのようなものであるかを論じていった。

〔雑誌論文3〕「聞き手指向の日本語ポライトネス」では、「聞き手志向」という観点から日本語ポライトネスとは何かについて論じていった。国立国語研究所の調査結果(1982, 2002, 2003)に基づき、近年日本語の言語行動における配慮表現の働きについての研究が盛んに行われている。この配慮表現が日本語ポライトネスにおいて重要な役割を果たしていることは事実なのであるが、

この結果をどのように日本語教育に生かしていくかについては、十分な考察が行われていないのが現状である。そこで、本論文では、日本語学習者（韓国語母語話者および中国語母語話者）にとって違和感のある日本語ポライトネス、および日本人にとって違和感のある日本語学習者のポライトネスをデータとして、ポライトネスおよび配慮表現に関する日本人と日本語学習者の意識の相違を特定し、その結果に基づき「聞き手志向」の日本語ポライトネス指導教材開発に向けた考察を行った。

〔雑誌論文1〕「日本人と中国人の配慮表現に対する認識—アンケート調査を基に—」では、日本語配慮表現指導教材開発に向けて、10代～50代の日本人および中国人に対する日本語配慮表現に対するアンケートを基に、日本語配慮表現に対する認識の相違を明らかにした。日本語における配慮表現の研究が盛んに行われているが、この配慮表現に対する日本語母語話者と日本語学習者の認識は大きく異なっている。日本語学習者にこの配慮表現を指導するには、先ず日本語母語話者と日本語学習者の配慮表現に対する認識の相違を特定する必要がある。そこで本研究では、10代～50代の日本人20人および中国人20人に対するアンケートを基に、日本語の配慮表現に対する認識の相違を調査分析した。その結果、(1)上位者が下位者に対して配慮して用いた丁寧表現、(2)仕事上の会話におけるスタイル、(3)相手の恩恵を示すことの重要性、(4)相手の都合・利益を優先することの重要性の4点での認識の相違が、量的調査および質的調査から明らかになった。

(5) 上記データを全て含めた報告書を『談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発』として、紙媒体およびCD-ROMとして出版した。報告書の目次は以下の通りである。

目次

はしがき	3
第1部 論文編	8
松村瑞子 「日本語会話におけるポライトネス—中国語・韓国語のポライトネスとの対照研究に向けて—」『日語研究論文集—日語研究的新視野—』(大葉大学応用日語学系), 13-38, 2009年7月。(研究業績論文6)	9
松村瑞子 「聞き手志向の日本語ポライトネス」『東アジア言語文化論究』, 第11集, 51-65, 2010年10月。(研究業績論文3)	43
松村瑞子 「日本人と中国人の配慮表現に対する認識—アンケート調査を基に—」『東アジア言語文化論究』, 第12集, 印刷	

中, 2011年4月。(研究業績論文1)	60
第2部 資料編	72
日本語学習者が違和感をもつ日本語ポライトネス	73
日本人・中国人へのアンケート調査内容および結果	108
1. アンケート調査内容	108
2. アンケート調査結果	112
第3部 教材編	114
日本語のポライトネス—誤解されやすい日本語ポライトネスを中心に—	
第I部 基礎編	115
第II部 応用編	179
解答・指導用解説	204
第I部 基礎編	205
第II部 応用編	222

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

- ① 松村瑞子 「日本人と中国人の配慮表現に対する認識—アンケート調査を基に—」『東アジア日本語・日本文化論究』, 第12集, 印刷中, 2011年4月。(査読有り)
- ② 松村瑞子・徐燕 「映像作品を利用した語用論的技能養成の方法開発に向けて」『言語科学』, 第46号, 11-22, 2011年3月。(査読無し)
- ③ 平静・松村瑞子 「日中会話におけるポライトネス・ストラテジー」『言語文化論究』, No. 26, 73-84, 2011年2月。(査読有り)
- ④ 松村瑞子 「聞き手志向の日本語ポライトネス」『東アジア日本語・日本文化論究』, 第11集, 51-65, 2010年10月。(査読有り)
- ⑤ 王萌・松村瑞子 「中国語における不同意表明の仕方—意見と評価の不同意を中心に—」『言語科学』, 第45号, 1-20, 2010年3月。(査読無し)
- ⑥ 松村瑞子 「日本語会話におけるポライトネス—中国語・韓国語のポライトネスとの対照研究に向けて—」『日語研究論文集—日語研究的新視野—』(大葉大学応用日語学系), 13-38, 2009年7月。(査読有り)
- ⑦ 網野薫菊・松村瑞子 「CMCにおけるターンテイクング・ストラテジー—メディアの特色がターンに及ぼす要因について—」『言語文化論究』, No. 24, 47-66, 2009年2月。(査読有り)
- ⑧ 因京子 「ストーリーマンガを用いた日本語の社会文化技能訓練」『日語研究論文集—日語研究的新視野—』(大葉大学応用日語学系), 39-68, 2009年7月。(査読有り)

〔学会発表〕(計8件)

- ①松村瑞子 「日本語の配慮表現とポライトネス：日本語ポライトネス指導教材開発に向けて」『2010年度中国日語教学研究会年會合』『第6回中日韓文化教育研究國際研究会』(於：大連外國語學院)，2010年9月25日。
- ②松村瑞子 「日本語におけるポライトネスとは何か」『第11回東アジア國際言語文化フォーラム』(於：上海外國語大學)，2010年3月19日。
- ③松村瑞子 「日本語と韓国語のポライトネス：談話分析に基づく対照研究」『第10回東アジア國際言語文化フォーラム』(於：仁川大學)，2009年3月7日。(招待講演)
- ④松村瑞子 「日本語の会話における丁寧さ」『2009年大葉大學應用日語學系國際學術研究會』(於：大葉大學)，2009年3月28日。(招待講演)

〔図書〕(計8件)

- ①松村瑞子・徐燕 『日本語のポライトネス—誤解されやすい日本語のポライトネスを中心に』(教科書)，1-62，2011年2月。權歌書房
- ②松村瑞子・李曦曦(編)『平成22年度日本語資料集』(資料集)，1-393，2011年1月。サガプリンティング
- ③因京子 「第4章 マンガージェンダー表現の多様な意味」『ジェンダーで学ぶ言語学』，73-88，2010年4月。世界思想社
- ④松村瑞子・王萌(編)『平成21年度日本語資料集』(資料集)，1-268，2010年3月。サガプリンティング
- ⑤松村瑞子・趙海城(編)『平成20年度日本語資料集』(資料集)，1-225，2010年3月。サガプリンティング

〔その他〕

ホームページ等

- ①松村瑞子・因京子 『談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発—平成20年度～22年度科学研究費補助金研究成果報告書』(紙媒体・CD-ROM)、総頁数224頁、2011年3月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松村 瑞子 (MATSUMURA YOSHIKO)
九州大学・大学院言語文化研究院・教授
研究者番号：80156463

(2) 研究分担者

因 京子 (CHINAMI KYOKO)
日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・

教授

研究者番号：60217239

(3) 連携研究者／なし

(4) 研究協力者

李 大年 (LI DANIAN)
九州大学・大学院比較社会文化学府・大学院生
李 曦曦 (LI XIXI)
九州大学・大学院比較社会文化学府・大学院生
徐 燕 (XU YAN)
九州大学・大学院比較社会文化学府・大学院生
王 龍 (WANG LUNG)
九州大学・大学院比較社会文化学府・大学院生
李 奈娟 (YI NAYOUN)
九州大学・大学院比較社会文化学府・大学院生
金 瑞賢 (KIM SEOHYUN)
九州大学・大学院比較社会文化学府・大学院生